

地域における医療情報データベース環境整備の例

黒田明子

独立行政法人科学技術振興機構 情報提供部普及企画課

高度な医学・医療の情報を必要とする機関においては、医師、看護師、コメディカル、場合によっては事務スタッフも含めて、データベースの導入・活用が望まれていると言われる。病院、あるいは病院図書室において、JDream II の導入により地域的な医療データベースの環境を整えている事例において、その利用の状況等を明らかにし、公共性の高い医療の地域拠点における情報整備のありかたを考察した。

JDream II の広域導入事例

千葉県では、県立の全病院にて文献データベース JDream II を利用できるようになっている。これは千葉県の組織の中に病院局が設立されたことをきっかけに導入されたもので、ヒアリングでは、各県立病院を順番に数ヶ月単位で研修する研修医のための環境整備であったことが明らかとなった。また、高知県においては、高知大学医学部からの研修医が、研修先でも学内と同じ条件で文献データベースにアクセスできるようにとの配慮から、高知大学を軸とし、研修医派遣先病院を含めた JDream II の契約を結んでいる。これらの状況から、地域におけるデータベース導入の動機付けの一つが「研修医を対象とした環境整備」であると言える。

JDream II の広域導入事例

- 千葉県立病院（8 病院）
- 高知大学の研修医 派遣病院（11 病院）
- 国家公務員共済組合連合会（KKR）病院（20 病院）

また、国家公務員共済組合連合会（KKR）では、虎ノ門病院を軸とした広域コンソーシアムを整備しており、現在は 20 病院が参加している。これらの詳しい状況については、会場にて発表する。

JDreamPetit 無料開放の患者図書室

日本では PubMed のような無料の医学情報のデータベースが存在せず、一般市民がより高度な情報にアクセスする機会が少ないことをしばしば指摘されている。JST では、JDream II を契約済みの病院で、患者向けのサービスを行う図書室を持ち、司書が相談に乗れる環境になっている場合に、個人向けサービスの JDreamPetit を無料開放する制度を試行的に始めている。現在この制度を利用しているのは、東京女子医大 からだ情報館、高知医療センター なるほどライブラリ、千葉県がんセンター にと文庫の、三カ所である。利用の傾向は、会場で図表と共に紹介する。